

令和元年度市政懇談会記録調書

対象地区	佐野中学区
日 時	令和元年7月6日(土)午後1時30分～午後3時37分
場 所	佐野コミュニティセンター
参加人数	46名

内 容 (要旨, 発言, 集約事項等)

事前質問

1. 雨水排水の分水化工事の促進について (建設部)

懇談質問

1. いきいき茨城ゆめ国体の行啓コースについて (市民生活部)
2. 電子図書館について (教育委員会)
3. 工事の進捗状況の見える化について (都市整備部)
4. 消防団の詰所の整備について (市民生活部・消防長)
5. 佐野運動広場のテニスコートの整備について (市民生活部)
6. 通学路の街頭の設置について (市民生活部)
7. 高野小松原線の工事計画及び信号機設置について (建設部)
8. いきいき茨城ゆめ国体の聖火ランナーについて (要望)
9. ゲリラ豪雨の対策及び計画について (建設部)

市長の講評

◇事前質問 1（雨水排水の分水化工事の促進について）

柏野団地で長年の懸案だった雨水の分水化について、未だ洪水状態から脱するにはほど遠い状況であるため、本年度分を含めた中期の分水実施計画を提示していただきたい。

■建設部長

柏野団地における雨水排水の分水化対策につきましては、これまで自治会長をはじめ自治会の皆様のご協力をいただきながら、平成29年9月には柏野団地9丁目の道路に管径が200mmの雨水バイパス管を布設する工事を行いました。

また、平成30年6月には、7丁目の西側の道路に管径が200mmの雨水バイパス管を布設し、平成31年3月には団地入口の道路へ向けて管径200mmの雨水バイパス管を布設いたしました。今後、分水化工事の実施計画につきましては、これまで実施した分水化対策工事の効果と7月4日の大雨等の状況を検証し、現場状況にあった計画を再度策定し、対応をしてまいります。

◇事前質問 1（雨水排水の分水化工事の促進について 2）

今、報告がありましたように平成29年度に第1次、平成30年度に第2次、第3次の工事をやっていただき、減水の効果というのは間違いなく出ていると思うが、まだ完全ではないというのが現状である。一昨日の7月4日の10mmから12mm程の雨でも溢れており、この写真については既に道路管理課に示し、ぜひ次の対策をしていただきたいと伝えた。

また、北谷津への分水化は3箇所やっていただいたが、もう1箇所やっていただきたい。中間の部分については、道路の両側に側溝があるが、右側の側溝は完全に溢れており、左側の側溝にはほとんど流れていない。このように左右がアンバランスで片側に集中させているから溢れてしまうので、今後、ぜひ対策をしていただきたい。

■建設部長

私も先日、自治会長に持ってきていただいた写真は見せていただきました。それに現場のほうも何度か行っていきますので、知っているつもりでございますが、道路の勾配とかもありまして、どうしても片側に水がいつてしまうということなんです。

その点も踏まえて、現場をもう少し精査しまして、他にどういう対策が必要なのか、一緒に検討をさせていただきたいと思います。それによって新しい対策が見えてくるのかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

◇懇談質問 1（いきいき茨城ゆめ国体の行啓コースについて）

自治会でも国体に向けて、高齢者の方に希望をとり行啓コースに連れていこうと考えているが、歩道に準備はできないので、場所によっては民家の土

地も借りて待合所を設置したいと思う。どこを何時ごろ通るのか、もし分かれば準備等も進めたいと思うので、コースの詳細が分かり次第、お知らせ頂きたい。

■市民生活部長

昨年もお答えしているかもしれないのですがけれども、国体の沿道の見送りというか、歓迎については、我々のほうでも情報が入り次第お伝えしたいと思います。ただ、セキュリティーの関係がありまして、かなり直前にならないと知らせが来ないということがありますので、ちょっと待っていただきたいと思います。

◇懇談質問2（電子図書館について）

新設図書館は5,500㎡ぐらいの計画であると思うが、並行して電子図書館の併用ができないか。電子図書館があれば、忙しい方でもインターネットで申し込みができ、自宅で自由な時間にタブレットで本を読むことができる。そうすれば、若い人も本を読むのではないか。全国でも既に導入されているので、ぜひ、ひたちなか市でも電子図書館の活用を検討していただきたい。

■教育次長

今、中央図書館のほうも建て替えの検討をしております、いろいろと先進的な図書館の検索システムや、ネットで読めるようなシステム等、そういったことも総合的に検討してまいりたいと思います。

◇懇談質問3（工事の進捗状況の見える化について）

区画整理事業の進捗状況について、地域の方が目で確かめられるように看板を作って欲しいと伝え、2箇所に掲示板を作ってもらった。場所を説明すれば、皆さん見に行くのではないか。

■都市整備部長

工事現場等を記載している佐和駅東地区の区画だよりを掲示する場所につきましては、まだちょっと探りの状態でありますけれども、佐野図書館の前や、やはり皆さんが利用する頻度が高いようなところ、そういったところを狙って掲示板を設置し情報をきちんと出していきたいと思います。先程、言われたように、皆さんへの見える化というのは重要だと考えておりますので、全体的にそのような考え方をもとに進めてまいりたいと思います。

◇懇談質問3（工事の進捗状況の見える化について2（要望））

工事等の担当部門は、広報に対して不得手な部分もあると思うので、市の広報部門と協力して市民にPRして欲しい。

◇懇談質問4（消防団の詰所の整備について）

消防分団の車庫や看板は、なぜ地区によりこんなにも差があるのだろうか。例えば、消防コミュニティセンターでは立派な看板が設置されているが、一方、別な地区ではシャッターの表面が半分剥げているところもある。また、消防コミュニティセンターには談話室があり、エアコンも設置されているが、私たちの分団では談話室は設置されていない。

今、分団員のなり手がいない中で、消防コミュニティセンターの整備事業で分団の詰所の整備等も推し進めていたと思うが、いつになっても状況は変わっていないのではないか。

■市民生活部長

消防コミュニティセンターと分団の車庫だけの建屋とで差がついているという話だったのですけれども、消防コミュニティセンターにつきましては、地域のコミュニティのために使う目的で、そういった集会ができるような施設をあわせてつくるということであれば補助が出るということで、そのような補助制度を使ってつくったもので、和室があったりというものになっております。

車庫だけのものについては、本当に消防の分団の純粋な車庫という形で以前つくられていたというように聞いております。確かに消防団のほうで、今はなかなか手が足りない、若い方の関心もないということもあって、今、定員400人に対して380人とか、そのぐらいだったと思うのですけれども、今後、消防団の団員の確保のためにいろいろな施策は進めていかなければならないと思いますし、消防団の詰所の件については、今後どういった方向で整備したほうが良いのかということは検討していかなければならないと思っております。詰所については、老朽化が進んでいるということで、そちらのほうの補修については計画的に行っておりますので、先程、シャッターの塗装が剥げているという話がありましたけれども、各分団の車庫については担当のほうで確認しまして、必要な整備はしていきたいと考えております。

■消防長

先程、消防団の件についてご質問がありましたので、我々、消防本部と消防団の関わりの部分もございますので、私のほうから少々お話をさせていただきます。

年間を通じて、我々、消防本部は消防団と連携をとりましていろいろな訓練であるとか、行事であるとか、そういったものを一緒にさせていただいております。それから、先程、市民生活部長のほうからもありましたとおり、我々と市民生活部も連携して、いろいろな消防団の会議等も一緒に参加しながら対応させていただいております。

先程、見える化というお話をいただいたのですが、ここの部分は我々の立場ではすごく重要だなと思っております。具体的に申しますと、日頃、消防

団の方が地域のためにどういうお仕事を、どういう役割を担っているかということを知りたい。地域の人にきちんと見てもらえる活動をもっともっと我々がどういった形でお示したほうがいいのか考えていかなければならないと思っています。

消防というと、やはり火事の際に火事を一生懸命消して、消防車で現場に行くとというイメージが強いのですが、実は消防団の方々は、昨年の西日本の豪雨の時もそうでしたけれども、地域の方を安全に避難させてあげるために非常に活躍されているのです。そういう役割というのは、これから消防団の方々は非常に多くなってくると思いますので、我々が消防団員の方々一人ひとり、命に関わるような状況にならないように、プロとしての活動をどういった形でしていくのが良いのか、安全管理の部分について消防団の方に指導させていただいています。そういった形で、我々、消防本部は消防団の方々の活動が見える形の側面として支えていきたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

◇懇談質問 5（佐野運動広場のテニスコートの整備について）

佐野運動広場のテニスコートが使えない状況であるため、整備をお願いしたい。

■市民生活部長

佐野運動広場のテニスコートの件は、私も現地は見えていないので、後で担当に伝えまして、現地を確認して、テニスコートが使えないということであれば、何らかの対策については考えていきたいと考えております。

◇懇談質問 6（通学路の街頭の設置について）

柏野団地から佐野中や佐野小学校に行く通学路は、柏野だけではなく、さわ野杜や佐和駅前の子どもたちも使う通学路になっており、街灯がまばらである。暗いから街灯を設置して欲しいという話が出ているが、この通路というのは全て稲田自治区の土地である。

どのようにして住民の要望に応えたらいいか、みんな勝手に動くわけにもいけないので、市でまとめていただければありがたい。

■市民生活部長

道路に建っている照明については、主な道路については街路灯がついていたり、あと生活道路や地区の住宅地については、防犯灯というものがついているのですが、防犯灯については、地区の自治会の方たちに自治会のほうに管理していただいて、設置管理、電気料の負担までしていただいているところです。地区の場所がちょっと分からないので、後ほど場所のほうを確認して、対応については協議させていただきたいと思っています。我々の担当のほう

佐野中学区

で、あわせてお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

◇懇談質問7（高野小松原線の工事計画及び信号機設置について）

高野小松原線が、いよいよ買収も済んで工事が始まるという説明だったが、完了はいつ頃になるのか。

また、常磐線沿いの道路は30km規制にしてもらったが、よその車が通り道や抜け道として速度超過で走っている。団地の住民としては、高野小松原線が開通すると恐らく交通量が増えると思うので、信号機を設置していただきたい。常葉台から県道31号(瓜連馬渡線)へ出るところに信号が1基もなく、朝は家から高野十字路方面に行くのになかなか渡り切れないため、信号機の設置をお願いしたいという要望を去年出したが、道路が開通した後、交通量を見るとの話になっているので、それらも含めてよろしくお願いします。

■建設部長

高野小松原線の工事に関しましては、今年度中に完了したいと思います。実は開通式も予定しております。その時には自治会の皆様方にはご協力をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それと信号機のお話ですが、まず高野小松原線ができて開通するまでに信号をつけてほしいということですが、東海村方面から常葉台の前の道路に向かってT字路になったところは危険であると考えられますので、警察に同時に信号をつけてほしいという要望はしております。ただ、それがまだ回答が得られていないというのが今の状況であります。必ずつけていただきたいということは強く要望はしております。

昨年の信号機設置の要望につきましては、やはり警察のほうから様子を見てということで、まだ保留ということにはなっておりますので、もう少しこちらからも要望したいと思いますので、よろしくお願いします。

◇懇談質問8（いきいき茨城ゆめ国体の聖火ランナーについて（要望））

ひたちなか市で、何区間か聖火が通る場所があるのか。もし、ひたちなか市に聖火が通るのであれば、伴走役だとしても人間形成に非常に役に立つと思う。また、市独自でアレンジできるのであれば、何区間か若い人を対象に聖火隊をつくっていただきたい。

◇懇談質問9（ゲリラ豪雨の対策及び計画について）

勝田特別支援学校からJR常磐線の間を立て看板が立っているが、ゲリラ豪雨に対しこれまでどのような対策がなされ、現状はどうなっているのか。また、今後の対策について伺いたい。

■建設部長

ゲリラ豪雨への対応ということで、市といたしましては、平成28年8月23日、その豪雨に基づいて、市民を守る緊急治水計画というものをつくりまして、今、整備している最中であります。

2017年から計画をつくりまして、その当時は13年で工事を完結したいということで進めていたところですが、今一生懸命、担当が現場での作業をしており、現在、国のほうとも協議を進め、前倒して行っているところです。

今、問題になっているところは、高場雨水幹線の関係だと思えます。ここにつきましても、前倒しで進んでおりまして、当時よりも1年から2年、現在進んでいるところです。その部分につきましては、高場雨水1号幹線、2号幹線の上流部にあたるところですが、現在、基本計画を作成しているところです。

その後、詳細設計を行いまして、一部、用地買収がかかるところもありますので、その辺も含めまして、検討しながら進めて工事に入りたいと思っています。当時よりも進んでいるということは確実に言えますので、工事まで少しお待ちいただきたいと思っております。

◇懇談質問9（ゲリラ豪雨の対策及び計画について2）

最近、宅地化が急激に進み、田んぼ、畑、遊休地等が非常に少なくなっている。前回のゲリラ豪雨時には道が通れなくなり、下水がオーバーフローしたため、その経験を踏まえ、非常時の対策について伺いたい。

■建設部長

先程お示ししたとおり、まず対策というのは、ハードの面でございますが、雨水幹線を早急に整備しなければならないというのが一番であると思っております。ただ、それを待つてはられない、それができるまではどうするのだということでありまして、それにつきましては、全庁的に災害に対する対応マニュアルがありまして、それに基づき、各部署で対応策を検討して対応しているところです。具体的にここで発表するには時間が幾らあっても足りないぐらいのマニュアルですので、その点につきましては、これが終わりましたら、お示しできるのかなとは思っておりますので、よろしく申し上げます。

■市長の講評

大変長時間にわたりまして、ご意見を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。それぞれ建設的な意見、また継続して要望いただいている件もあったかと思えます。我々としても、そういった意見をしっかりと検討し進められるところは進められるように、そしてなかなか難しいところは、またそういった回答も含めて皆様に進捗が分かるように努めてまいりたいと思っております。1年に1回の懇談会ではありますけれども、前市長も言っていたかと

と思いますが、市役所は常に開かれておりますので、いろいろなタイミングで確認をしていただければと思っております。

私のほうからまとめも含めて、市の数字的な話を少し補足させていただこうと思うのですが、まず人口なのですけれども、今15万9,000人ちょっとということで、昨年初めて自然増減も社会増減もともにマイナスになったというところ です。具体的に言うと、去年1年間で生まれてひたちなか市に出生届を出していただいたお子さんというのは1,170人で、初めて1,200人を割り込みました。

この市内で、1歳刻みで一番多くいる年齢というのは46歳、まさに私の年齢なのですが、団塊ジュニアの世代ということで2,900人おります。ですので、私の46歳と比べて去年生まれてきた子どもの人数の割合は大体40%ぐらいになっていると、こういうところ です。

一方で、2025年に団塊の世代がみんな全て後期高齢者になっていくと、75歳を超えていくということもありまして、もうひとつ、人口構造でいうと、今69歳から70歳が2,400人いるというような構造であります。

仮になのですけれども、このひたちなか市が10万人を維持するためには、各1歳刻みで1,300人いたとして、掛ける80歳で初めて10万4,000人になるわけ です。1,200人だと、掛ける80歳だと9万6,000人になってしまう、10万人は切ってくる、このような状況なのです。

このひたちなか市の適正規模がどのくらいなのかというのはともかくとして、やはり緩やかに人口が減っていく局面に入っている中で、ある程度人口が維持されていかないといろいろな市民サービスにも影響が出てくる可能性があると感じております。

その上で、やはり子どもを安心して産み育てやすい環境を作っていく、子育て世代に選ばれるまちづくりというのも、やはりしっかりやっていかなければいけないと思っております。また、先程の医療と介護の連携もありましたけれども、いよいよ2025年には高齢化率も30%近くになってくるということで、このあたりもきちんと手当てをしていかななくては いけない。

さらに自然増減でいうと、昨年1,200人ぐらいがお生まれになって、1,400人のお亡くなりになっている、一方で社会増減ということでいうと、6,000人ぐらいの方が市外に出ていって、6,000人ぐらいの方が市内に転勤等で入ってくると、このボリュームも非常に大きいわけ であります。ですので、働く場の確保をしっかりとやりながら、それと住まい、近接するまちづくりというの も継続してやっていかなければいけないと思っております。

もう少し人口についてお話させていただきますと、ひたちなか市は男性の人口が多いのです。0歳から男性が多く、25歳から35歳の10年間でいうと、男性と女性の人口差がさらに広がるのです。もうちょっと細かく見ると、22歳のタイミングで一旦、人口が減るのです。これは多分、社会人になるタイ

ミングだと思うのですが、多分18歳ぐらいの高校卒業のタイミングで実際には市外に出ていってしまっていると考えられます。ただ、親御さんのところに住民票は置いておいて、就職するタイミングで移されるから22歳のところがぐっと減るのだと思うのですが、こういうことを見ていると、高校から就職するまでのこのタイミングで、どうしたらひたちなか市にいていただけるのかということも考えなくてはいけないし、戻ってこられる、入ってきていただける方では男性のほうが多く入ってきて女性が入ってこない。その結果、25歳から35歳の10年間は男性と女性の開きが多くなるのか。数字を見ていだけで、幾つかの課題が見えてくるところがあります。

さらに深く分析しなければいけないところもありますが、いずれにしても、このまちが次の世代もその次の世代にもやはりここに住んで良かったなというまちをつくっていくためには、このような一つひとつ課題に対して、きめ細かに対応していかなくてはいけない、しっかりと向き合うために、まさに皆様からのご意見というのは本当に宝物だと思っています。

一方で、それを進めるに当たってなのですが、この春、ひたちなか市のいわゆる正職員としては915人でスタートとしております。約15万9,000人の人口を915人の職員で対応させていただいている。今日並んでいるだけでも、さまざまな部署の長がいるわけですが、住民当たりの市の職員数というのは、極めて少ない市であります。多分、茨城県内でも1、2位を争う少ない職員数なのかなと。

ただ、新たな取り組みを進めていくためには、やはり多少、人材の増加というのが必要だということも思っております。この春、少し定員の枠を増やさせていただいております。あわせて、それでも16万人弱の市民の皆様に対して、我々がいろいろなことをとにかく積極的にやっていくということは、間違いないのですけれども、やはり全部を抱えるということができないというの、また一方での現実であります。

そういったことで、先程、どなたかもおっしゃられておりましたけれども、ひたちなか市は協働のまちづくり、そのような形で進めております。さまざまな形で自治会の皆様、そしてコミュニティの皆様、それぞれの団体の皆様、消防団の皆様、いろいろなところから協力をいただいております。これは本当に感謝申し上げます。

こういう形で、それぞれができることをやっていこうと、自分たちのまちは自分たちで考えていこうという流れがしっかりとできている素晴らしいまちであることも確かだと思えます。継続してこういうまちづくりに協力をしていただきたいと思えますし、また、この市政懇談会に出ていただいた皆様方、私たちも一生懸命答えさせていただきましたが、こういう情報をまだまだ知らない人たちはたくさんおります。地域に出ていった時にこの間、こう

いう話題が出ていたよと今度は皆様から、その他の人たちに伝えていただくような役目も担っていただければありがたいなと思っています。

また、そのような中で出てきた疑問は、冒頭にも申しあげましたけれども、いつでも市役所は開かれておりますので、ぜひご意見、ご要望を寄せていただきたいと思っています。

私も市長になって初めての懇談会ということもありましたので、私の今後の抱負的な要素もありましたけれども、決意も含めて皆様に申しあげて、今日のこの市政懇談会の場を閉じさせていただきたいと思えます。本当に本日はありがとうございました。